1　課題名　高度回遊性魚類調査
（国際資源対策推進委託事業日本周辺国際資源調査）

2　区　分　受託

3　期　間　平成18年度～

4　担　当　企画情報部（武田保幸）・資源海洋部（御所豊穂）

5　目　的

日本周辺における国際魚類資源の安定的な利用確保のため，科学的データを整備する．本事業は水産総合研究センターからの再委託を受け，遠洋水産研究所を中心に全国的な組織で実施されている．この内，本県はカツオ，マグロ類，カジキ類，サメ類の水揚状況や各魚種の生物特性の調査を行った．

6　成果の要約

（1）試験の方法

カツオについては，ひき縄漁での水揚量が多い和歌山東漁業協同組合串本本所，（以下串本市場），和歌山南漁業協同組合すさみ支所（以下，すさみ市場），和歌山南漁業協同組合田辺本所（以下，田辺市場）の伝票を整理し，水揚量調査を実施した．また，串本市場では，ひき縄漁で漁獲されたカツオの体長を測定した．

マグロ・カジキ類については，指定港である勝浦漁業協同組合（以下，勝浦市場）の伝票を整理し，水揚量調査を実施した．また，まぐろはえ縄漁で漁獲されたマグロ・カジキ類の体長と体重を測定した．なお，体重については，勝浦漁業協同組合職員による測定値を採用した．

(2) 成果の概要

ア　カツオ漁況（図1）

串本，すさみ，田辺市場の2008年のカツオ水揚量は，1～2月は26トンで1981年以降では17位とやや低調であった．盛漁期の3～5月は604トンで，1981年以降では19位と低調ながら，2004年以降では5年ぶりに500トンを超え，不漁であった昨年の2倍となった．しかし，秋漁は低調で，8～12月の漁獲量は3トンであった．

イ　マグロ類漁況（図2）

勝浦市場におけるクロマグロ（成魚）の年間水揚量は，2001年以降増加傾向となり，2005年が436.5トン（前年に比べ119.8トン増加）で近年では最高となったものの，2006年は162.1トンに激減し，2007年211.7トン，2008年117.1トンと3年連続で低水準が続いている．2008年の年間水揚量は，前年を大きく下回った．

キハダ（キハダ+メジ）の年間水揚量は，1998年以降減少傾向となり，2008年は前年に比べ417.9トン増加して1,615.8トンで，特に7～9月に多かった．

メバチ（メバチ+ダル）の年間水揚量は，近年1,500トン前後で比較的安定していたが，2007年以降減少傾向が続いている．2008年は1,235.9トン（前年に比べ128.7トン減少）でやや少なめであった．3～4月と12月に多く水揚げされた．

ビンナガの水揚量は，1998年以降漸減傾向にあり，2008年は6,026.7トンと，前年に比べ1,318.2トン減少した．

ウ　カジキ類漁況

カジキ類のうち水揚量の最も多い魚種はクロカジキで，続いてメカジキ，マカジキとなっており，この3種で水揚量の大部分を占めている．また，この3種は周年水揚され，クロカジキが夏～秋季，メカジキが冬～春季，マカジキが春季を中心に多く水揚されている．

メカジキの水揚量は，2008年は261.7トン（前年に比べて52.0トン減少）であった．マカジキは140.2トン（前年に比べて28.0トン減少），クロカジキは564.2トン（前年に比べて93.5トン増加），シロカジキは3.7トン（前年に比べて0.5トン減少），バショウカジキは1.0トン（前年に比べて1.8トン減少）と，クロカジキ以外は前年に比べ全て減少した．フウライカジキは，あまり水揚されることがなく，0～0.5トン前後の範囲で推移している．

7　成果の取り扱い

（1）成果の普及

成果報告会，市場等において，はえ縄，ひき縄漁業者に水揚状況等を説明した．また，各種データは遠洋水産研究所および日本エヌ・ユー・エス株式会社に送付した．

（2）成果の発表

平成20年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書，平成20年カツオ資源会議報告書，平成20年度ビンナガ資源来遊動向検討会報告書

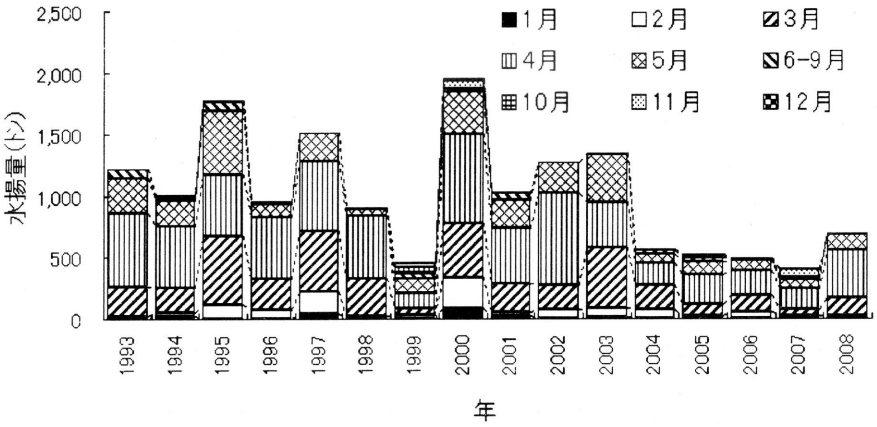

図1　ひき縄による串本・すさみ・田辺市場のカツオ水揚量の月別経年変化

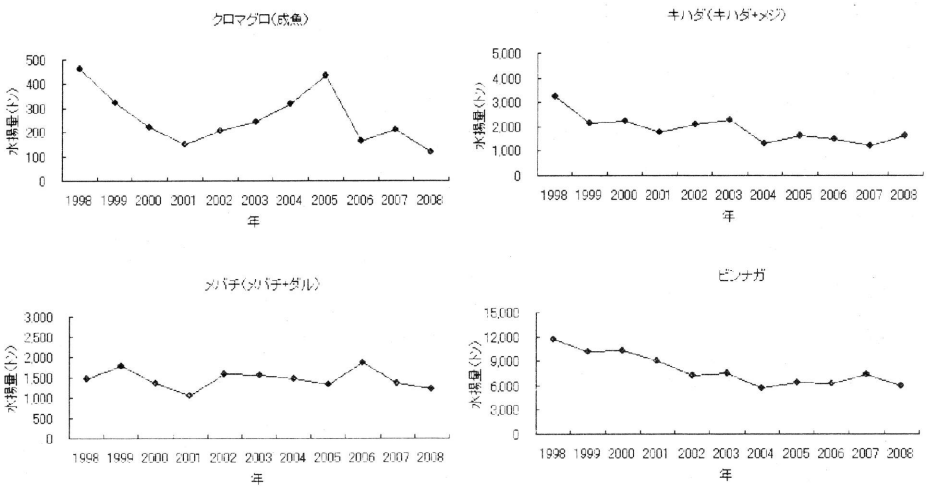

図2　マグロ類の水揚げ量の経年変化（勝浦市場，近海＋沿岸まぐろはえ縄・その他のまぐろはえ縄）

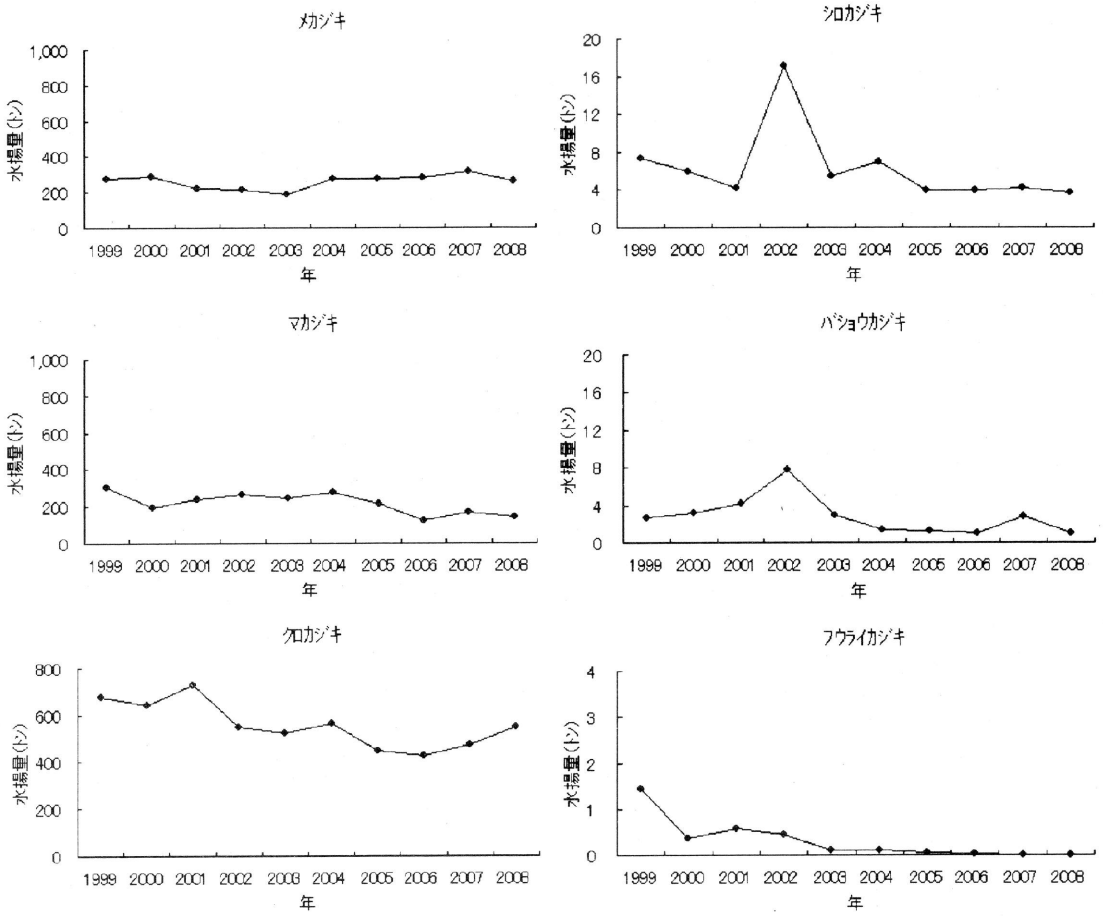

図3　カジキ類の水揚量の経年変化（勝浦市場，近海＋沿岸まぐろはえ縄・その他のはえ縄）